

定例森の観察会

植物の不思議探検隊

開催日：4月16日

天気：曇り

参加人数：22名

講師：足澤 匡

今年の春はしばらく立ち止まって、ちょっと進んで・・・待ち遠しい日が続きますが、春探しの探検に出かけましょう。今回の森の観察会は、“植物の不思議探検隊”足澤 匡氏の案内です。



森の入り口で、アカマツの大きな切り株を囲み、この木の生きてきた長い時間を振り返ってみました。大人たちが年輪を数えだした時、男の子が「ねりんってなに？」と大きな声で質問してくれました。おかげで、知っているようで知らなかった木の成長について教えてもらいました。

年輪はこの木の成長の歴史です。夏の成長期にたくましく、冬の寒い季節は緩やかに成長する違いがバームクーヘンのような年輪をつくります。樹皮と木部の境に成長する部分（細胞が分裂する組織）があり、木部となる部分は内側へ育ち、樹皮となる部分は外側に新しい組織が生まれるので、松の一番外側の樹皮は古い樹皮となり、割れてはがれていきます。

ハクウンボクは、枝の赤い樹皮がリボンのようにはがれているのが特徴で見つけやすい木ですが、これがはがれるのも、新しい樹皮が外側に育ったためだったのですね。

膨らんだ大きな芽の下に複数の芽が用意されていて、何かで傷ついた時にも、次の芽が伸びてきます。

幼木にたくさんの棘をもつハリギリの大きな木に触ってみると、ゴツゴツとした見た目とは違い、意外にも柔らかかったです。

別名「栓の木」と呼ばれて、昔、そのやわらかな内皮をコルクのようにビンの蓋に使っていたそうです。

それぞれ、樹皮も成長の仕方に変化があり、木を見分ける大事な要素とわかりました。



ハクウンボク



ハリギリ

森の木々の芽が順調に膨らんでいました。それぞれの木の枝や芽は特有の色を見せて生き生きとして、そのせいで森の空気が全体霞んでいるように見えました。

一番気の早いニワトコが葉を広げ、緑の蕾も目立ちます。ウグイスカグラは小さなピンクのトランペットのような花を開いています。ツノハシバミの雌花は、教えてもらわないと気が付かないほど小さく健気な花でした。えんじ色の雌しべを伸ばして、風で飛ぶ雄花の花粉を待ちます。虫を呼ぶ必要がないので目立たない花でも大丈夫だそうです。



ハクモクレン



ウグイスカグラ



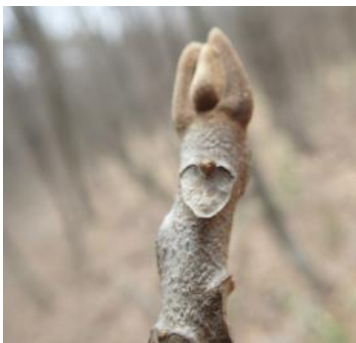
ツノハシバミ



ハナイカダ



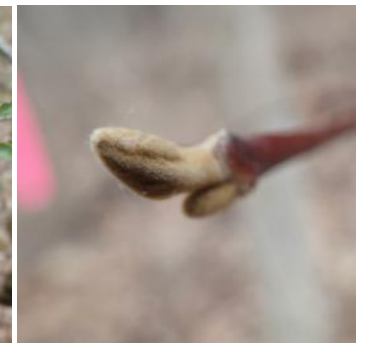
ヤマボウシ



ヤマウルシ



ニワトコ



ハクウンボク

ホオノキ、オオバクロモジ、コブシ、サンショウの枝の香りをかいてみました。今回はオオバクロモジのさわやかな香りが人気でした。

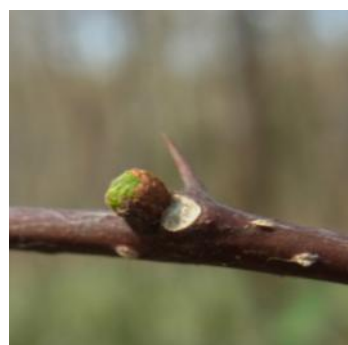
おいしいそうな香りのサンショウには托葉が変化した鋭いとげが若芽を守り、開いたばかりのトチノキの若い葉はベトベトと粘る芽鱗で守られていました。



オオバクロモジ



ホオノキ



サンショウ



トチノキ

前日の強風で折れたカラマツの枝に雌花、雄花を観察できました。そばに球果（松ぼっくり）も落ちていて、雌花の形がそのまま松ぼっくりに成長することが想像できました。



カラマツの雄花



雌花



球果



大きな栗の木は、昔牧草地で遮るものがないころにのびのびと育った枝が腕を差し出しているかのよう。その枝も周りに木が育つようになって、勢いがなくなっているように見えます。

つつじ園では、エゾムラサキが見ごろになっていました。サツキの枝先を撫でてみると、コツンと固い花芽を確認できました。春に咲く花たちは、夏前にすでに準備を始めていたそうです。もうすぐ、そんな春の花の競演を楽しめることでしょう。



エゾムラサキつつじ



今回観察したもの

アカマツ、サイカチ、ツタウルシ、ヤマウルシ、ニワトコ、ヤマモミジ、ニガキ、カラマツ、オオバクロモジ、エドヒガン、ウグイスカグラ、エンレイソウ、ネコノメソウ、ノリウツギ、アジサイ、クリ、ヤマボウシ、コブシ、モクレン、エゾムラサキつつじ、レンゲつつじ、サツキ、トチノキ、メタセコイヤ、ハリギリ、ヤマブキ、ヒメアオキ、サンショウ、ツノハシバミ。

次回は5月21日（日）

自然の宝物見つけ隊

濱津ミサノ・北田正憲氏のご案内です。